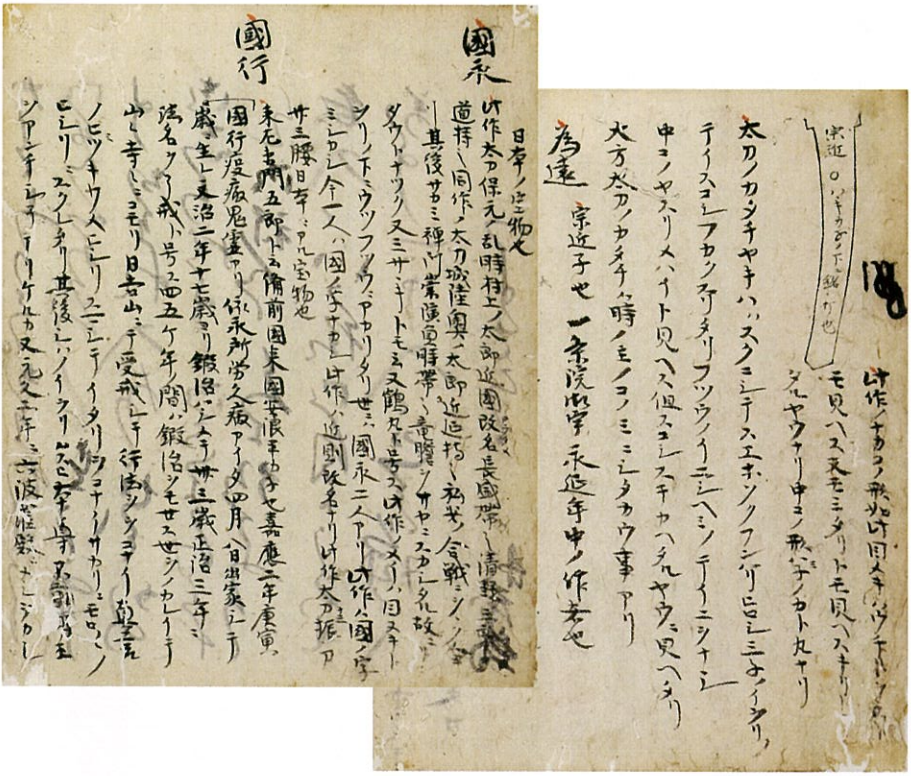
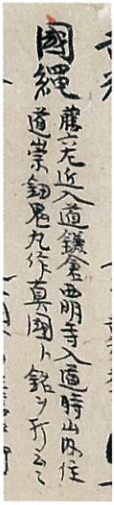


鍛冶名字考

享徳元年(1452)写　1冊
縦28.0cm　横23.2cm

伊達家が所有していた《鶴丸国永》、豊臣秀吉も所持したという《鬼丸国綱》は、後に明治天皇へ献上され、今なお世に伝わる名刀である。その御物二口の名も記された『鍛冶名字考』は、室町時代の後期、まだ戦国時代が始まる前に書かれたもの。その内容は刀工の名を国別に列記するだけでなく、銘、刀剣の特徴、説話、鍛冶系図等を収める。

例えば国宝《三日月宗近》の作者宗近は、備前から京都に移住したと記載。両地にその名を挙げて図を添え、《蝶丸》または《鶴丸》と呼ばれる刀の形や伝来を記すが、これは御物《鶴丸国永》とは別物。《鶴丸国永》は国永の項に、北条貞時所持までの伝来及び「リンタウ」や「ミサヽギ」とも呼ばれていたという説話がある。国永の隣の国行は、松永久秀が織田信長に献上した刀《不動国行》の作者。嘉応二年（一一七〇）に生まれ、十七歳より鍛冶を始めたとある。また本書には京都住として長谷部国重の名があるが、これは信長が所持しその後黒田家へ伝わったとされる《へし切長谷部》の作者である。



挿図にて《鬼丸》を国縄（綱）作としながら「真国ト銘ヲ打云々」とも書いているのは、『太平記』に《鬼丸》という刀を打ったのは真国だと記されている故の混同か。現存御物《鬼丸国綱》には、国綱の銘がある。

現存する刀剣書の写本中二番目に古い本書は、源氏の宝刀《髭切》、平家の宝刀《小烏丸》の説話や『曾我物語』に通じる仇討話なども有し、説話の豊富さに特色がある。戦国時代以前の刀工及び刀剣について知ることの出来る、数少ない重要な書物である。

（天理図書館　池谷礼）

天理図書館のお知らせ　Tel：0743 - 63 - 9200　http://www.tcl.gr.jp/
◆平日（午前９時～午後５時半）　土・日・祝（午前9時～午後4時半）
○４月の休館日：18日・28日・29日
（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）